


## 自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道雄武高等学校
-----	-----------

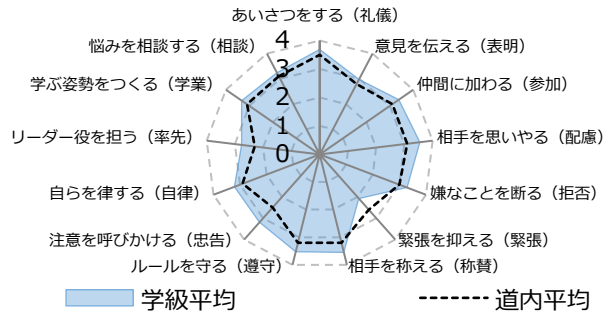
### (1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年7月14日（金）	研修参加人数	9人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童生徒の自殺を予防するためのプログラムについて」</li> <li>・北海道における自殺者数の推移と傾向について</li> <li>・自殺予防教育に向けた「校内の環境づくり」と「下地づくりの教育」について</li> <li>・本校の教育活動におけるピア・サポート活動による自己肯定感を高める取組について</li> <li>・高校生ステップアッププログラムとの関連性について</li> </ul>		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の観察や声がけを小まめに行う事が大切であると再確認した。</li> <li>・本校の上級生が下級生にピア・サポート活動を指導する取組を今後も継続して、生徒の自己肯定感を高める教育活動を進めていく。</li> </ul>		
研修等で使用した資料名	「児童生徒の自殺を予防するためのプログラム」(平成30年3月(道教委)) 「自殺予防教育の実施に向けて(その1)(その2)」 ((平成29年3月)(平成31年3月)道教委)		

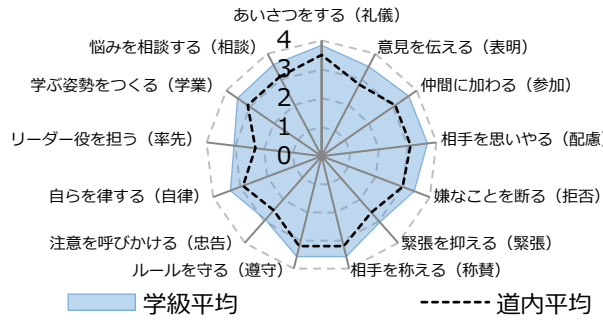
### (2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）
A 援助希求的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・サポート活動</li> <li>目的：人間としての望ましい生き方やセルフエスティームの向上と共に、ピア・サポートを通じて自己肯定感の醸成と仲間をサポートできる環境づくりを目指す。</li> <li>①コミュニケーション能力の育成</li> <li>②望ましい人間関係の育成</li> <li>③問題解決能力の育成</li> </ul> </li> <li>対象学年：1・2年生</li> <li>内容：相談しやすい人間関係（4月28日（金）） 相談しやすい方法（5月29日（月）） 相談しやすい会話の仕方（7月18日（火））</li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・サポート活動を進める際に、2年生が教員による事前講習を受けて、どのような活動をするのかを生徒同士で協議し、1年生に対してサポートを行う。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントツール「ほっと」を年2回実施した。1年生は、「緊張を押さえる」スキルが全道平均に若干届かないが、その他のスキルは超えている。2年生は、全てのスキルで全道平均を上回る結果となった。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の感想                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちが誤って伝わってしまうときがあることが分かった。（1年生）</li> <li>・自分の伝えたいことを伝えることが難しいと感じた。（2年生）</li> </ul> </li> </ul>
	 <p style="text-align: center;">異学年によるピア・サポート活動</p>

1年生スキルの状況

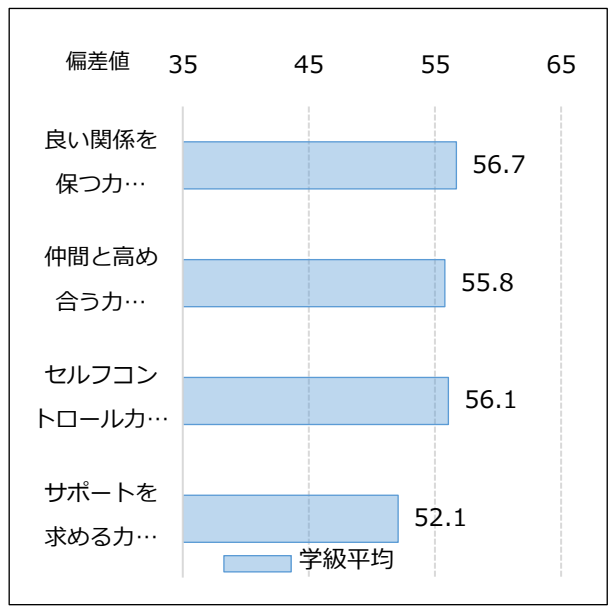


2年生スキルの状況



B 早期の問題認識(心の健康)

- 実践の概要
  - ・保健体育科(1年生)(8月)  
教科書:現代高等保健体育(大修館書店)P42【ストレスや不安に対処しよう】  
ねらい:心の危機のサインを知り、心身が不調なときの対応を考える。  
内容:ストレスや不安と上手に向き合う方法を学び、自らの「考え方のクセ」や思考のパターンを知ることで、その対処方法を学ぶ。  
ストレスや不安を抱え込まずに誰かに話を聞いてもらい、誰かの悩みを聞く姿勢を学び、生涯にわたり様々な人と良好なコミュニケーション関係を築いていく方法を学ぶ。
- 生徒の変容を促す工夫
  - ・視覚的にわかりやすいPowerPointを作成し、授業の最後に自分の考えをプリントに書かせることで、内容を整理させる。
- 生徒の変容
  - ・ソーシャルスキル尺度得点の特徴では「良い関係を保つ力」が2回目の調査で1.1上昇し、「セルフコントロール力」は高水準で推移した。
- 生徒の感想
  - ・ストレスや不安と上手に向き合う方法を学ぶことができた。
  - ・良好なコミュニケーション関係を築いていくことで良い人生を送れることを改めて理解した。



○ 実践の概要

1 保健講話（6月28日（水））

- (1) 目的：人間関係の土台となるコミュニケーションの在り方を学ぶ機会とする。
- (2) 対象学年：全学年
- (3) 講師：MIW工房 姉帯 美和子
- (4) 内容：①気持ちや思いは外からは見えない。  
②どんなことも安心して話せるような雰囲気をつくらせてみんなで作っていきこう。  
③自分も・相手も大切にすることを5つのポイント。



保健講話

・こころのライブ授業

- (1) 目的：自分や他者の存在を肯定する事を改めて学ぶことで、自分や他者の存在（命）を認め合い、大切にすることを育む機会とする。
- (2) 対象学年：全学年
- (3) 講師：いのちの電話事務局長 杉本 明・ナイト DE ライト
- (4) 内容：①未成年者自殺の傾向と電話相談に寄せられる事例から「こころの授業」



こころのライブ授業

②「音楽ライブ」ナイト DE ライトによる生演奏

○ 生徒の変容を促す工夫

・保健講話

会場で隣り合わせた生徒同士でキャッチボールを行い、相手のことを思って投げる強さや距離を変えることをコミュニケーションに置き換えて説明を行った。

・こころのライブ授業

講演だけではなく、生徒の心情に届くような楽曲をまとめたミニライブを実施した。

○ 生徒の変容

- ・アセスメントツール「ほっと」を年2回実施し、全校で「相手を思いやる」「相手を称える」スキルで全道平均を超えた。

○ 生徒の感想

- ・相手と話すときは、教えていただいた5つのポイントを大切にしていきたいと思った。（保健講話）
- ・普段話すことのない生徒とゲームなどの交流する事ができたことが良かった。（保健講話）
- ・講話では、全国で生徒の自殺者数が増加傾向であることや、自ら命を絶つ若者の現状を知ることができた。ナイト DE ライトさんのライブでは、「1人ひとりがとても大切な存在であること」や「1人ひとりが違っていい」というメッセージが込められた素敵な演奏を聴き、いのちの尊さや相談することの大切さを感じた。（こころのライブ授業）

3年生スキルの状況

